

## 2015年 外来・入院患者統計（2015年1月～12月）

## ■ 外 来 ■

月	初 診					再 診					合 計				
	消化器・ 肝移植 外 科	臨床腫瘍 科・乳腺 外 科	乳腺・ 甲状腺 外 科	消化器病 センター	I B D センター	消化器・ 肝移植 外 科	臨床腫瘍 科・乳腺 外 科	乳腺・ 甲状腺 外 科	消化器病 センター	I B D センター	消化器・ 肝移植 外 科	臨床腫瘍 科・乳腺 外 科	乳腺・ 甲状腺 外 科	消化器病 センター	I B D センター
1月	47	35	86	260	19	1,022	757	1,109	4,456	912	1,069	792	1,195	4,716	931
2月	41	38	84	262	21	1,082	704	1,112	4,169	787	1,123	742	1,196	4,431	808
3月	55	35	110	267	31	1,089	887	1,337	4,833	1,046	1,144	922	1,447	5,100	1,077
4月	55	23	110	264	18	1,098	841	1,126	4,499	872	1,153	864	1,236	4,763	890
5月	46	25	82	242	23	1,014	737	1,104	4,054	972	1,060	762	1,186	4,296	995
6月	46	28	100	323	28	1,149	899	1,273	5,128	1,024	1,195	927	1,373	5,451	1,052
7月	51	24	103	281	28	1,174	843	1,139	4,733	1,031	1,225	867	1,242	5,014	1,059
8月	60	33	88	209	25	1,105	791	1,089	4,421	910	1,165	824	1,177	4,630	935
9月	39	29	75	246	18	1,083	829	1,104	4,253	976	1,122	858	1,179	4,499	994
10月	49	48	89	288	28	1,158	906	1,188	4,633	1,047	1,207	954	1,277	4,921	1,075
11月	40	55	94	258	17	957	871	1,058	4,467	892	997	926	1,152	4,725	909
12月	48	45	79	249	22	1,128	864	1,147	4,509	1,016	1,176	909	1,226	4,758	1,038
計	577	418	1,100	3,149	278	13,059	9,929	13,786	54,155	11,485	13,636	10,347	14,886	57,304	11,763

## ■ 入 院 ■

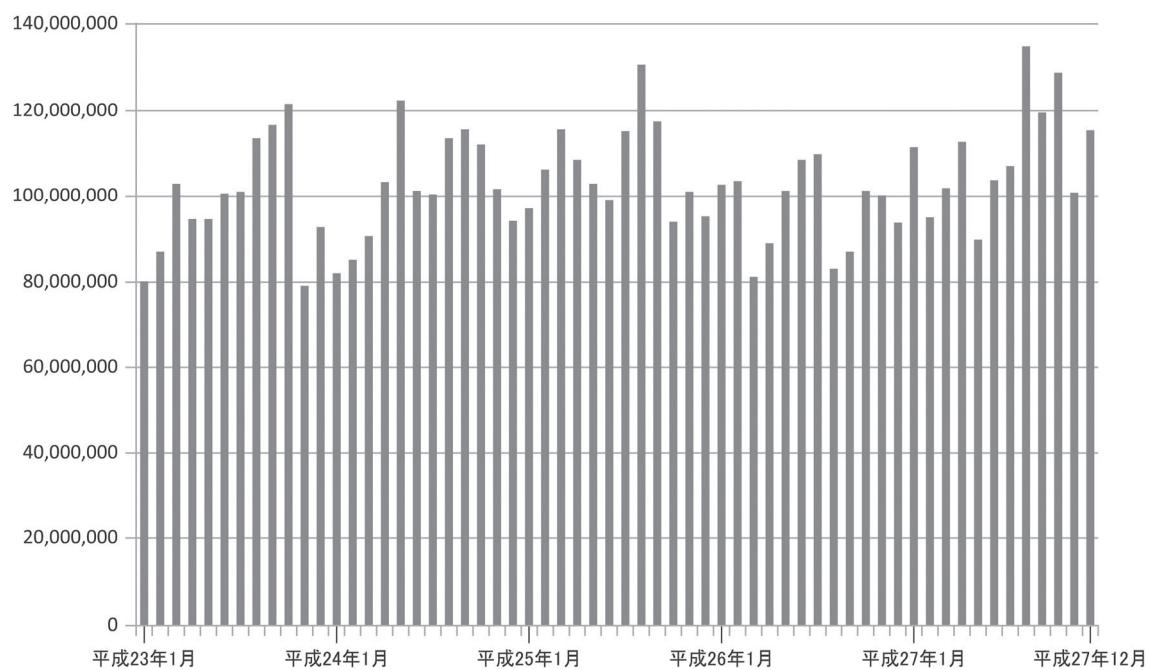
月	新 入 院					退 院					延 入 院 数				
	消化器・ 肝移植 外 科	臨床腫瘍 科・乳腺 外 科	乳腺・ 甲状腺 外 科	消化器病 センター	I B D センター	消化器・ 肝移植 外 科	臨床腫瘍 科・乳腺 外 科	乳腺・ 甲状腺 外 科	消化器病 センター	I B D センター	消化器・ 肝移植 外 科	臨床腫瘍 科・乳腺 外 科	乳腺・ 甲状腺 外 科	消化器病 センター	I B D センター
1月	97	46	37	247	18	75	49	29	205	16	1,201	554	388	2,878	346
2月	87	35	35	237	18	85	36	39	239	21	1,234	388	385	2,813	363
3月	83	50	45	256	30	94	48	41	268	25	1,304	511	468	2,999	471
4月	82	42	30	247	19	70	43	37	246	23	1,227	496	400	2,854	400
5月	83	38	32	226	30	96	48	27	228	28	1,258	544	361	2,861	423
6月	100	54	38	269	29	76	55	42	266	25	1,331	532	411	2,787	432
7月	87	40	39	269	27	95	41	34	261	30	1,399	447	317	3,003	456
8月	86	37	31	265	28	82	43	34	276	27	1,604	387	288	3,017	546
9月	81	39	32	238	26	77	36	29	230	26	1,503	380	330	2,458	477
10月	104	39	30	256	22	113	37	35	269	25	1,640	511	398	2,972	453
11月	87	46	29	225	25	81	52	30	228	21	1,328	509	297	2,643	512
12月	87	32	29	227	31	103	44	35	267	34	1,492	420	303	2,629	545
計	1,064	498	407	2,962	303	1,047	532	412	2,983	301	16,521	5,679	4,346	33,914	5,424

※ 数値は速報値です。

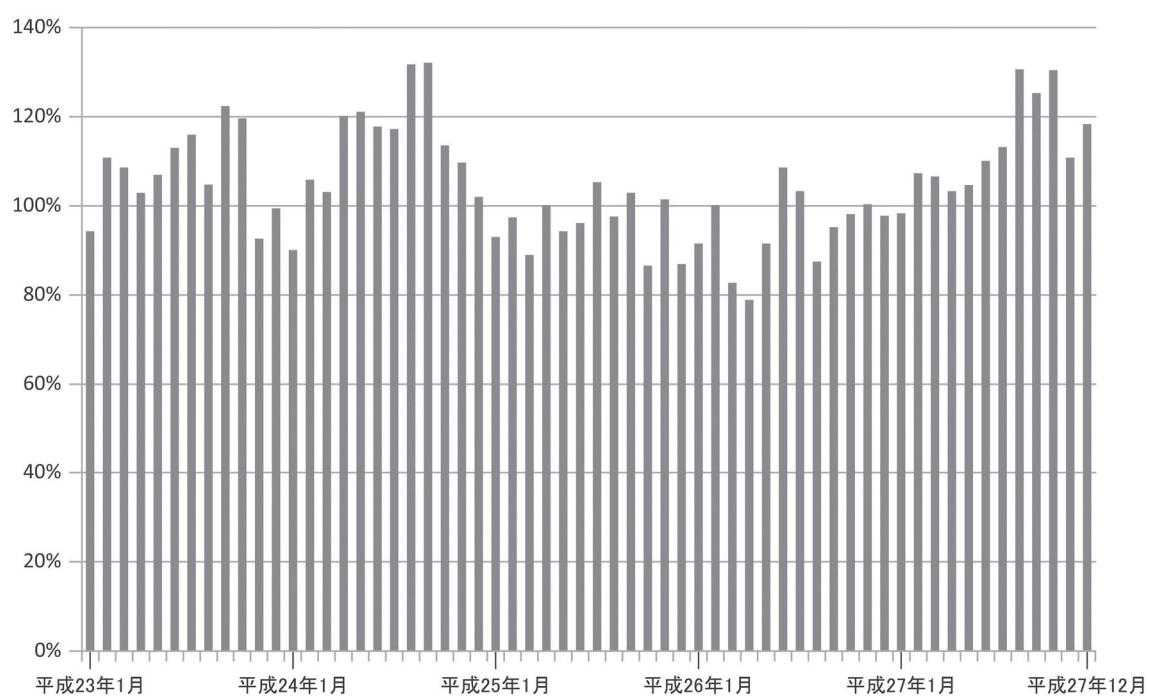
※ 延入院数は24時現在の在院患者数ではありません。退院患者も含まれています。

## ■ 消化器・肝移植外科の最近5年間の診療指標の推移 ■

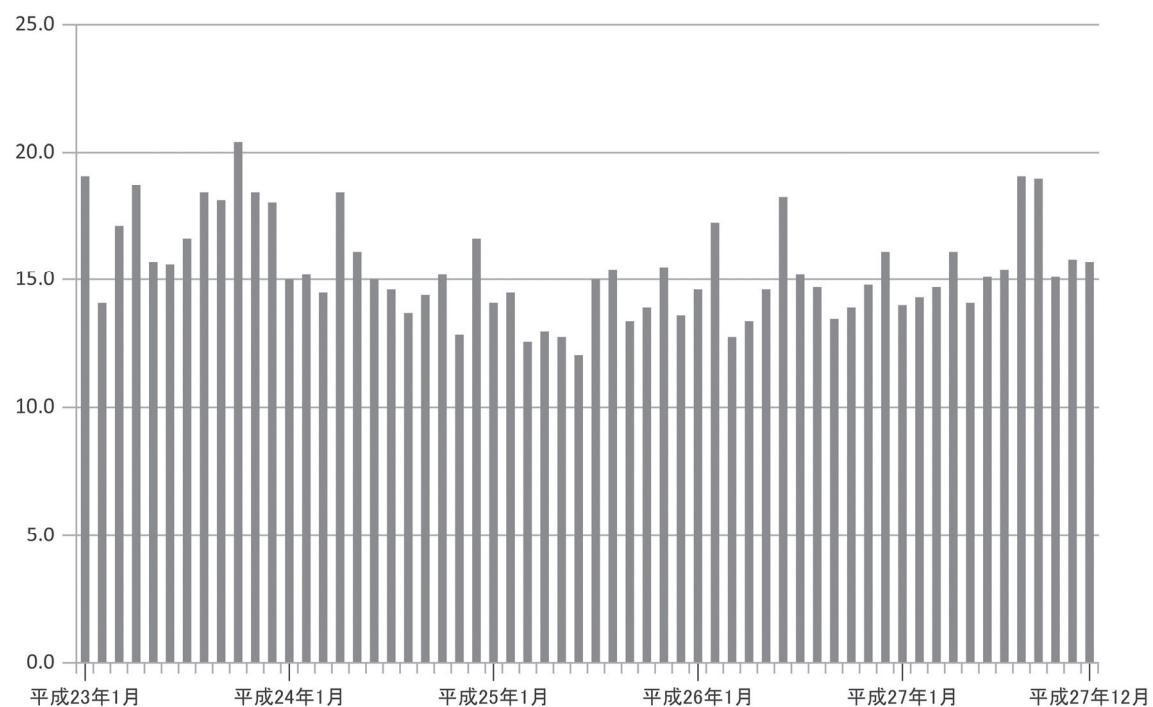
■ 稼働額(室料除く) ■



■ 病床利用率 ■



■ 平均在院日数 ■



# 外来日程表

(平成28年1月1日現在)

## 横浜市立大学附属病院

		月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
消化器・肝移植外科	初診担当医 再診担当医 専門外来担当医	遠藤 格 川口 大輔		遠藤 格 浅野 史雄		遠藤 格 浅野 史雄
		島 秀栄	有坂 早香	三宅謙太郎 後藤 晃紀	川口 大輔	関澤健太郎
		肝・胆・膵 遠藤 格 松山 隆生 森 隆太郎 澤田 雄		肝・胆・膵 遠藤 格 武田 和永 松山 隆生 森 隆太郎 熊本 宜文 大田 洋平 澤田 雄 平谷 清吾		肝・胆・膵 武田 和永 熊本 宜文 大田 洋平 平谷 清吾
		胃 秋山 浩利 小坂 隆司		肝胆膵化療 原田 郁		胃化療 秋山 浩利 小坂 隆司
		大腸化療 石部 敦士				大腸 石部 敦士 樅山 將士
	初診担当医 再診担当医 専門外来担当医	市川 靖史	小林 規俊 徳久 元彦	市川 靖史 小林 規俊	後藤 歩	
		市川 靖史	小林 規俊 徳久 元彦	市川 靖史 後藤 歩	後藤 歩 徳久 元彦	小林 規俊
		化学療法外来 市川 靖史	化学療法外来 後藤 歩	化学療法外来 市川 靖史 小林 規俊	外来化学療法室 市川 靖史 後藤 歩 徳久 元彦	乳腺化療 菅江 貞亨 木村 安希
		大腸化療 市川 靖史			化学療法外来 小林 規俊	化学療法外来 後藤 歩
		乳腺 菅江 貞亨				

**横浜市立大学附属市民総合医療センター**

乳 腺 甲 狀 腺 外 科	初診担当医 再来担当医	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
			乳腺外来 成井 一隆 山田 顯光 足立 祥子		甲状腺外来 益戸 功彦 増田 晴彦	乳腺外来 成井 一隆 山田 顯光 足立 祥子
(IBD) 炎 症 性 腸 疾 患 セ ン タ ー	初診担当医 再来担当医		木村 英明			木村 英明
			木村 英明 笠原 康平			木村 英明 笠原 康平
消化器病セ ン タ ー	初診担当医 午前 専門外来 担当医	大田 貢由	國崎 主税	大田 貢由 円谷 彰 宮本 洋	國崎 主税	南 裕太
		下部消化管(大腸・直腸・大腸化学療法) 大田 貢由 菅野 伸洋 諫訪 宏和 中川 和也 虫明 寛行	上部消化管(食道・胃) 國崎 主税 円谷 彰 山口 直孝 宮本 洋 佐藤 圭	下部消化管(大腸・直腸・大腸化学療法) 大田 貢由 菅野 伸洋 諫訪 宏和 中川 和也	上部消化管(食道・胃) 國崎 主税 泉澤 祐介 佐藤 圭	肝・胆・脾 南 裕太
		下部消化管(大腸・直腸・大腸化学療法) 大田 貢由 菅野 伸洋 諫訪 宏和 中川 和也	上部消化管(食道・胃) 國崎 主税 円谷 彰 山口 直孝 宮本 洋 佐藤 圭	下部消化管(大腸・直腸・大腸化学療法) 菅野 伸洋	上部消化管(食道・胃) 國崎 主税 山口 直孝 宮本 洋 泉澤 祐介	ヘルニア 交代制 肝・胆・脾 南 裕太
	午後 専門外来 担当医	下部消化管(大腸・直腸・大腸化学療法) 大田 貢由 菅野 伸洋 諫訪 宏和 中川 和也	上部消化管(食道・胃) 國崎 主税 円谷 彰 山口 直孝 宮本 洋 佐藤 圭		肝・胆・脾 南 裕太	
		緊急対応	前澤 幸男	井上 広英	井上 広英	前澤 幸男

## 2015年各施設入院手術統計

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合	帝京大学ちば医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	横浜労災病院	横須賀共済病院	横浜市立みなと赤十字病院	済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	横浜保土ヶ谷中央病院	横浜掖済会病院	がん・感染症センター都立駒込病院	NTT東日本関東病院	長津田厚生総合病院	育生会横浜病院	松島病院	藤沢湘南台病院	港南台病院	
<b>胃十二指腸</b>																								
胃癌	腹腔鏡(補助)下噴門側胃切除術	1	6			2							1	1	1			6						
	幽門側切除	8	18	7	14	28	21	8	9			24	14	20		12	6	1	28	1	1		21	
	腹腔鏡(補助)下幽門側胃切除術	7	30	15	3	7	17					29	18	11	3	4	2	39	3				9	
	幽門保存胃切除術					3																		
	腹腔鏡(補助)下幽門保存胃切除術	1				7						1												
	胃全摘術	6	25	5	25	11	25		11		34	17	23		6	5		13	1				5	
	腹腔鏡(補助) 下胃全摘術	1	29	3							6	2	3		1		4	1					3	
d																								
LUAЕ																								
PD					1			1		1														
	胃空腸吻合術		4	4	2		1				2	2	2		1		3						6	
	腸瘻造設術		2				1				1	2				1								
	部分切除術			2							1					1								
	その他 (試験開腹術含む)	6	35	13	1	3	5				4	11	19		2	1		1				6	1	
残胃癌	残胃全摘術			5		2	3	3	2	3	3	1			1		1						2	
	残胃空腸吻合術						1				1												1	
	腸瘻造設術																							
	その他				1						1													
胃粘膜下腫瘍	部分切除術		2		1	4	2				2	1				1	1							
	腹腔鏡(補助)下部分切除術		9				4				1	1	6		1									
	幽門側切除術																							
	胃全摘術						1										1							
	その他											2												
胃悪性リンパ腫	幽門側切除																							
	胃全摘術					1					1													
	その他																							
胃潰瘍	胃全摘術											1												
	広範囲胃切除術											1												
	迷走神経切離術																							
	胃部分切除術																							
	その他					2	6	2		2	2	1	11			1								
肥厚性幽門狭窄	筋層切開																							
十二指腸癌	PD												2			4								
	胃空腸吻合術							1			1	1												
	部分切除術		1								1	1				1								
	その他																							
十二指腸潰瘍	広範囲胃切除術																							
	迷走神経切離術														2									
	単純閉鎖術																							
	単純閉鎖+大網被覆術		2		5	3	1	1	2		1	6		2		3								
	大網被覆術 (腹腔鏡)			1							1	1												
	その他							1							1	1								
十二指腸 GIST	部分切除術	1	2	1	1	2							1											
その他		2	4		2	1	6	1			5	1				13								
大腸																								
結腸癌	腸切除術	4	21	5	14	45	12	20	33		22	25	64	8	24	18		36	2			19		
	腹腔鏡下切除術	31	139	37	46	85	102	13	7		152	84	65	2	12	3		127	4			27		
	非切除人工肛門	1	14			1		2	2		22	4	5		2		1	2				4		
	その他	2		1	1	9																		

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合	帝京大学ちば医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	横浜労災病院	横須賀共済病院	横浜市立みなと赤十字病院	済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	横浜保土ヶ谷中央病院	横浜掖済会病院	がん・感染症センター都立駒込病院	NTT東日本関東病院	育生会横浜病院	長津田厚生総合病院	湘南記念病院かまくら乳がんセンター	松島病院	藤沢湘南台病院	港南台病院
直腸癌	前方切除	1	3	8	4	14	2	6	7		2	2	19		12	5		5					8	
	ISR				4	1						2												
	腹会陰式切除術				6	1	5	2	1	2		1		5		2	2	1					5	
	腹仙腹式切除術					1		2								1		1						
	仙骨腹式切除術																							
	骨盤内臓全摘術					6					2		4	2	1					1				
	腹腔鏡下切除術	32	113	33	18	47	25	5	1		78	46	17		4	3		33	3				12	
	非切除人工肛門	7	9	3	6		6	5	1		24	7	3	1	1			10					7	
	その他 (Hartmann を含む)	3		7	1	6		1	3		4		6			1			2				1	
肛門癌	直腸切除術						2										1							
	局所切除術				1			2															1	
	非切除人工肛門	1																						
	その他																							
再発結腸癌	腸切除術	1	1			1		1			2				1									
	非切除人工肛門	1							1							1								
	その他	1								2		6	1											
再発直腸癌	直腸切除術	1		1																				
	骨盤内臓全摘術			1																				
	局所切除術							1			1													
	両径リンパ節郭清術																							
	非切除人工肛門					1											1							
	その他		1						1								1							
結腸ポリープ	腸切除術 (腹腔鏡を含む)	1		1								1	4	1										
	腸切開ポリープ切除術																							
	その他							1									1							
直腸ポリープ	腸切除術												1											
	腸切開ポリープ切除術																							
	経肛門的切除術			2		2								4		1	2		2			37	5	
	その他			1																				
肛門ポリープ	切除術			1									1		1	3	1				470	4		
大腸憩室炎	切除術	1	1	2	3	12	2					6	12		3	3			2				3	
	ドレナージ術				1																			
	その他			2							5													
大腸カルチノイド	切除術					1						2	1	1										
大腸悪性リンパ腫	切除術										2	1												
人工肛門状態	閉鎖術	22	46	21	5	34	11	2	6		70	22	22	1	7	15		28				11		
潰瘍性大腸炎	大腸亜全摘術			21			14	1																
	大腸全摘術			20			54																	
	残存直腸切除術			19		17																	1	
	空腸部分切除術																							
	その他			1	3	24																		
Crohn 病	小腸部分切除		20	1	104							1					2						1	
	結腸切除術		8		36																		30	
	その他 (Seton)		3		37																			
腸結核					1																			
Meckel 懿室	切除術													1										
小腸腫瘍	切除術					1					2		5	1	1			6				2		
	その他					1																		
その他		2	4	4	3		2	5	2		13	10					2					3		

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合	帝京大学ちば医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	横浜労災病院	横須賀共済病院	横浜市立みなと赤十字病院	済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	横浜保土ヶ谷中央病院	横浜掖済会病院	がん・感染症センター都立駒込病院	NTT東日本関東病院	長津田厚生総合病院	育生会横浜病院	松島病院	藤沢湘南台病院	港南台病院	
肛門																		78						
痔核	結紮切除術			7	2	2		10	5		12	8		9	5	10		1			2095	288		
	PPH 法				2																	1		
痔瘻	根治術			5			2	1	1		10	4			1	5	42				1104	60		
肛門周囲膿瘍	切開排膿術	3		2	1	1			3		3	3			3	3		5			559	17	3	
裂腔												1						4			211	12		
直腸脱	Gant-三輪法など			3	1	1		2			8	5	1	1	5	3		5	1		69	50		
肛門狭窄																		12			48	12		
その他		1					3				4				1			1	3			443	14	
消化管その他																								
急性虫垂炎（幼児）	虫垂切除術					14	35	9	5			15	21											
急性虫垂炎（成人）	虫垂切除術	4	12	17	60	78	64	17	27		47	67	84	10	32		2	70	11			63		
腸閉塞	癒着剥離術	6	10	10	11	35	8	9	4		19	15	28		5	1		9				6		
	腸切除術	5		2	7	10	9	7	10		11	11	17	1	2	2	2	10				9		
	吻合術	4		5	2			2			5	3	6	1	2									
	その他（人工肛門造設）	1			1		7	1			2	1	3		1	1			2					
	整復術		1				2	1				1												
腸重積	腸切除術				1	1			1		2	2										1		
縫合不全	腸切除術					1						1						2	4					
	ドレナージ術		2									1												
	人工肛門造設術	2	5	1		3	1	1	3		2	3	4					7	1					
穿孔性腹膜炎	人工肛門造設術	2	3	6		19	8	1	7		14	5	2		1			3	2			2		
	ドレナージ	1	4	5	9	16	5		2		18	9	29		2			1	1			13		
残胃穿孔	ドレナージ											1	1											
腸間膜腫瘍（腸切）		1	1	1		3										1								
その他				4	1	10		4			25	19						1	2			2		
肝胆道																		1						
原発性肝癌 (HCC)	肝切除術	24	10	10	14	6	8				18	4	7		9	6	18	1				3		
	肝動注					1																		
	その他	3			2																			
原発性肝癌 (CCC)	肝切除術	6	3	2	1	4	2						1				1	10						
	肝動注																							
	その他（試験開腹など）	13																						
転移性肝癌	肝切除術	29	14	31	9	9	8	1	2		35	19	7		6	3	50	14				8		
	肝動注				6																			
	その他					1						1												
胆囊癌	胆囊摘出術	1	3			1			1		1	1	1					2	1					
	胆囊床切除	6	1	2		2	2				2	1	2			1		1						
	S4下5切除					1						1					1	1						
	拡大肝切除術											1												
	肝切除+PD																							
	その他（試験開腹など）							1			1													
胆管癌	PPPD (+肝切除)					4											5							
	PD (+肝切除)	6		2	1		1		2		1	2	1		1									
	総胆管空腸吻合術																3							
	その他（試験開腹など）				1												2	1			1			
乳頭部癌	PPPD					3											5							
	PD	5	3				1				2	2	1											
	胃空腸吻合術							1				1												
	その他（試験開腹）										1													

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合	帝京大学ちば医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	横浜労災病院	横須賀共済病院	横浜市立みなと赤十字病院	済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	横浜保土ヶ谷中央病院	横浜掖済会病院	横浜駒込病院	がん・感染症センター都立駒込病院	NTT東日本関東病院	長津田厚生総合病院	育生会横浜病院	松島病院	藤沢湘南台病院	港南台病院
肝門部胆管癌	肝切除術	19	1			2						1					2							
	拡大肝門部胆管切除+PD																							
	胆管切除	1		1																				
	肝脾同時切除	4																						
肝血管腫	肝切除術	1		2	1							1												
肝嚢胞	肝切除術											1						1						
	開窓術			3	3							1	1	1				2						
肝膿瘍	ドレナージ術			2														5						
	開窓術																							
肝内結石	肝切除術	1			1													1						
	その他											1												
胆囊結石	開腹胆囊摘出術	1	1	5	32	22	7	2	31		36	20	11	1	7	6	2	20					5	
	腹腔鏡下胆摘術	1	19	29	69	88	97	10	32		158	111	105	26	29	30	56	106	24					58
総胆管結石	胆総胆管切開術(T)					1												1	1					
	胆総胆管切開術(R or C)		1	3	2		1				2	1	2		2	2								7
	胆摘経胆囊管の切石																							1
	その他																							
胆囊ポリープ	開腹胆囊摘出術	2			5						1	1	1											
	腹腔鏡下胆摘術		2	2	5	1	1	1	1		2	1	2		1	2		2						3
	その他																							
総胆管囊腫	囊腫切除胆道再建	1	2		1													3	2					
睥胆管合流異常	胆囊摘出術																							
生体肝移植																								
その他(良性乳頭部胆摘総胆管切開術(R))	1		2																					
睥臓・脾臓																								
睥癌(IPMN,MCNを含む)	PD	44	8	2	8	2	5		1	6	10	2		5	1	2	21							1
	PPPD					5											16							
	TP		1			1	1										2							
	脾体尾部切除	11	12		5	4	6			4	3	2					20	7	1					
	部分切除	4				1						1					1							1
	診断的腹腔鏡、試験開腹・生検	39		1		2				1	2						16							
	消化管バイパス手術	1				1		2	1	2	2					1	10							
睥囊胞	切除術				2					2														
慢性睥炎	PD	1															1							
	PPPD																							
	その他	1																						
ITP	脾臓摘出術(開腹)																							
	脾臓摘出術(腹腔鏡)															1			2	2				
その他		4	2	1	2	3	1	1	6							1			1	1				
ヘルニア																								
腹壁瘢痕ヘルニア	根治術	3	1	2	9	2	8	2	3	16	9	10	4	2	3	1	11	2					5	
睥ヘルニア	根治術	1			2		1	4	2	3	3	3	2	2	3		3	1						1
単径ヘルニア(幼児)	根治術				3	2	2	4		4	4	3												
単径ヘルニア(成人)	根治術(従来法)		2							3	3						3							23
	根治術(腹腔鏡)			2						15	27	76	150	21	2	1		6						70
	メッシュプラグ	38	88		10	7	63		78	8	8	6	25	2		13								
	PHS					1				8			2			185								
	その他				146	118	51		37	45	72	35	39	84			27							
大腿ヘルニア	根治術			4	3	1	5	6	4	12	1	7		3	5	3							2	
閉鎖孔ヘルニア	根治術			1	1	1	1	3	2	1	3					1							1	

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合	横浜市立大学市民総合	帝京大学ちば医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	横須賀労災病院	横浜市立みなと赤十字病院	済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	横浜保土ヶ谷中央病院	横浜掖済会病院	がん・感染症センター都立駒込病院	NTT東日本関東病院	育生会横浜病院	長津田厚生総合病院	松島病院	藤沢湘南台病院	港南台病院
その他		1		3	3	1	5						2	1	2									
血管																								
下肢静脈瘤	Stripping							1			1	0		2	34									3
動脈血栓症	血栓摘出術											0			1									
腸間膜動脈血栓症	腸切除術						1				1	1												
門脈塞栓術		28		2								0				1								
肝動注カテーテル抜去		2		2								0												
その他		7		3			4				113	0	50	9	32	1			12				15	4
術後出血	開腹止血	6	1		1		1				1	2		1			1		1					4
	開胸止血											0												
後腹膜・腎																								
後腹膜腫瘍	腫瘍切除				1		1					3	2	1	2									
その他					2	1					2	1	7											
体表		5		6		21	3	26		14	42			19		153		3				3	14	
その他		1	9	63	39	7	24	2	27	0	7	3		4	20								1	

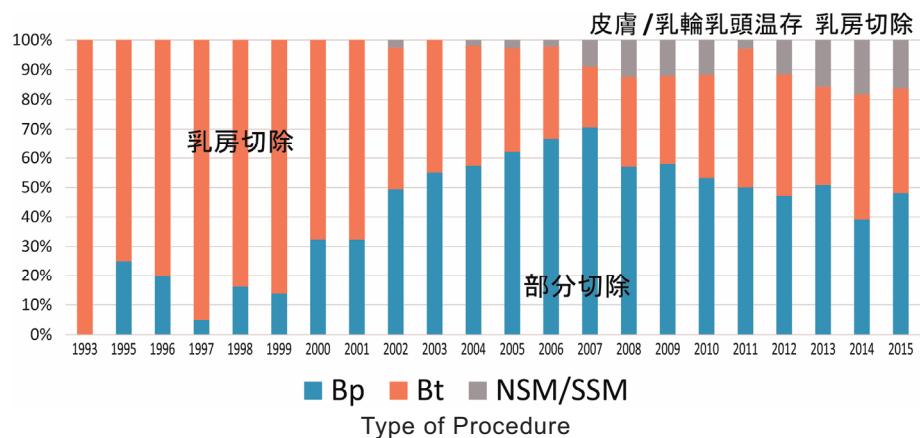
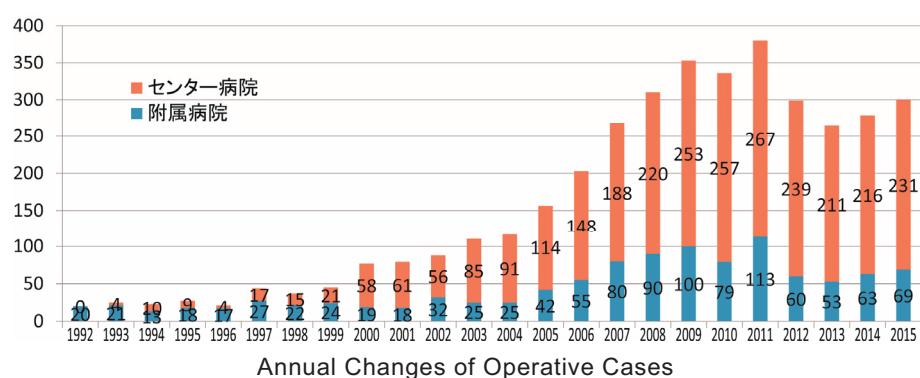
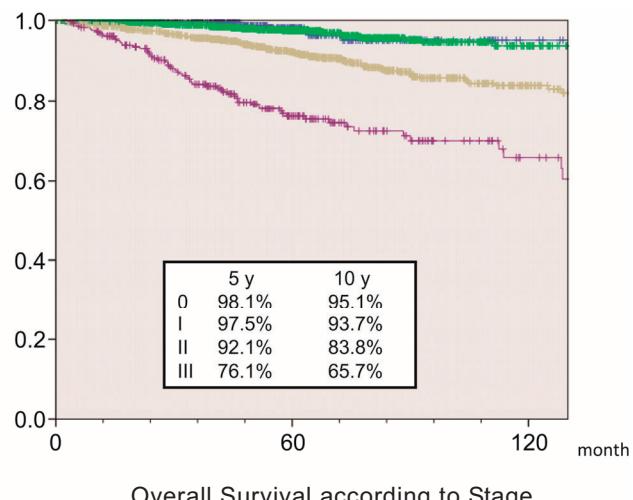
# 疾患別5年生存率

## 乳 瘤

菅江貞亭、成井一隆

1992年から2015年までの横浜市立大学付属病院および市民総合医療センターで手術を行った3855例について解析を行った。両施設合わせた病期別解析では、5年生存率が0期；98.1% I期；97.5% II期；92.1% III期；76.1%であり、10年生存率は0期；95.1% I期；93.7% II期；83.8% III期；65.7%であった。2015年原発巣切除件数は300件（附属病院69件、市大センター病院231件）であった。2007年以降は毎年250件以上の手術をさせていただける環境となっており、今後もこの状態を継続できるように努力を続けていきたい。

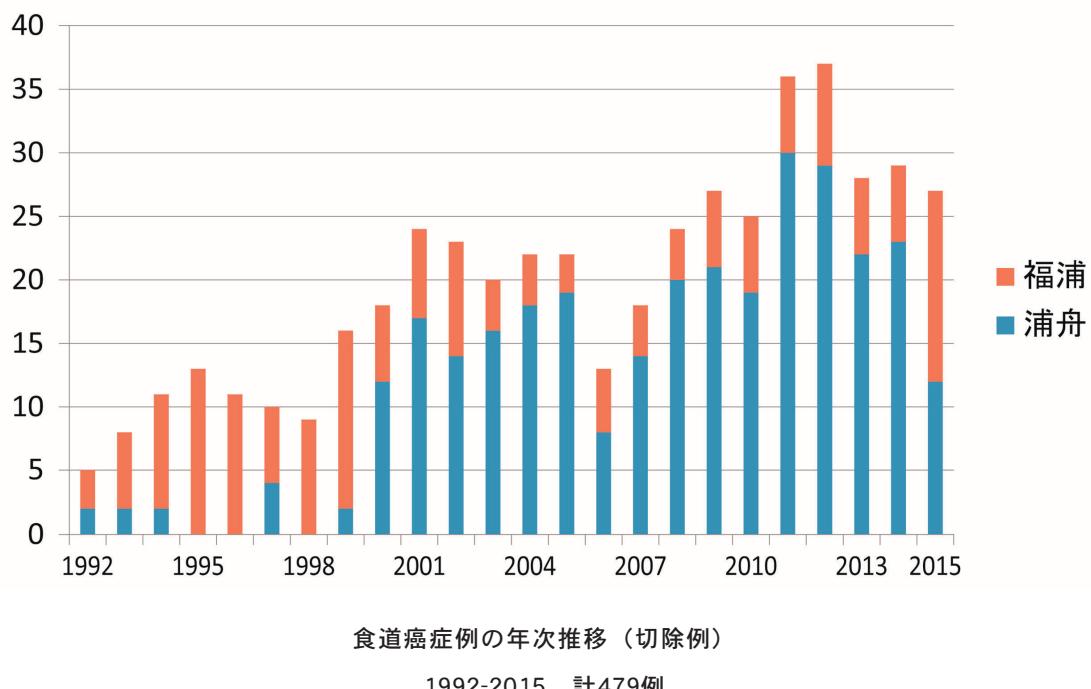
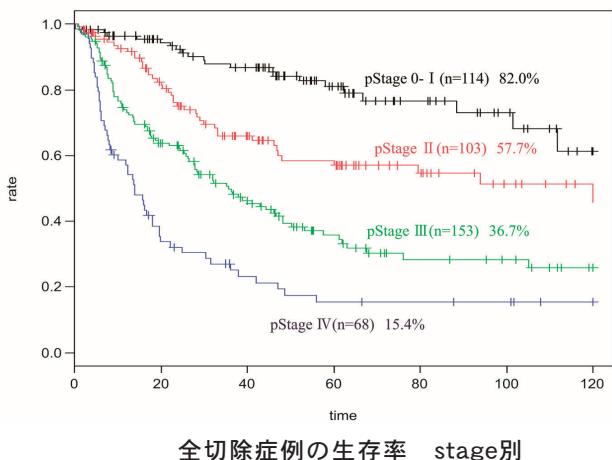
また、CSPOR、SNNS研究会などの全国的な臨床試験のほかに、YCOGやKBOGなど地域の臨床試験にも積極的に参加し続けている。今年度も関連各施設とも連携しながら臨床試験にも取り組んでいきたい。



# 食道癌

小坂 隆司

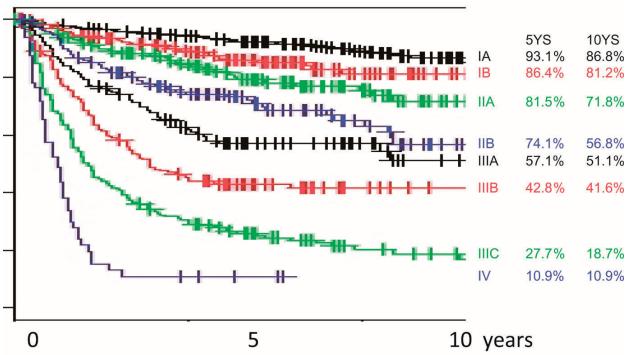
2015年の切除症例は30例（福浦15例、浦舟15例）であり、1992年より合計472例となった。全切除症例の5年生存率は47.9%であった。Stage別の5年生存率は0-I=82.0%、II=57.7%、III=36.7%、IV=15.4%であった。cstageII,III進行食道癌に対しては術前化学療法（NAC：FP療法）を施行しているが、化学療法中に栄養状態が悪化した症例での術後の早期再発例が多く、治療中の栄養介入が今後の課題であると考えられた。手術はセンター病院を中心に腹腔操作はHALS（Hand assisted laparoscopic surgery）、胸腔操作はVATS（Video assisted laparoscopic surgery）と低侵襲手術を行っている。



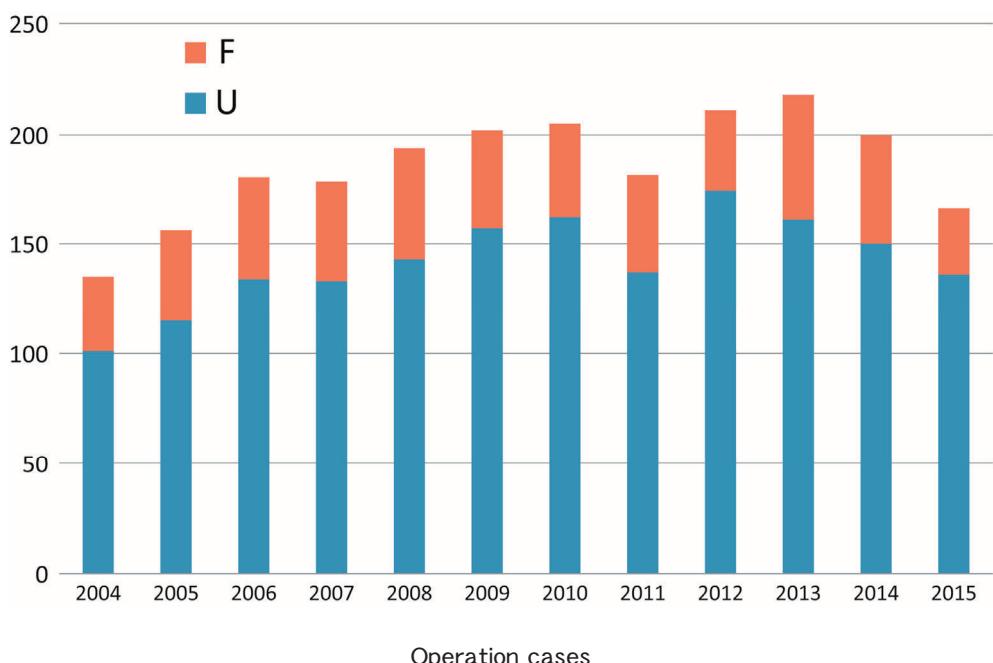
# 胃癌

小坂 隆司

2015年の胃切除症例は162例（福浦26例、浦舟136例）で1992年より3088例となった。全切除症例の5年生存率は70.7%であった。Stage別の5年生存率は、IA=93.1%、IB=86.4%、IIA=81.5%、IIB=74.1%、IIIA=57.1%、IIIB=42.8%、IIIC=27.7%、IV=10.9%で全国集計と比較して遜色ない成績であった。腹腔鏡手術の適応をT3 (SS) 症例まで拡大しており、半数以上（54.6%）が腹腔鏡手術となっている。また、センター病院を中心に早期癌に対しては2portsでのReduced ports gastrectomyも行われており、幽門側胃切除のみならず、胃全摘・噴門側胃切除についても施行している。術前化学療法としてstageIII症例にはDCS (TS-1+DOC+CDDP) が行われている。今後も腹腔鏡手術・術前化学療法を中心の症例を蓄積していきたい。



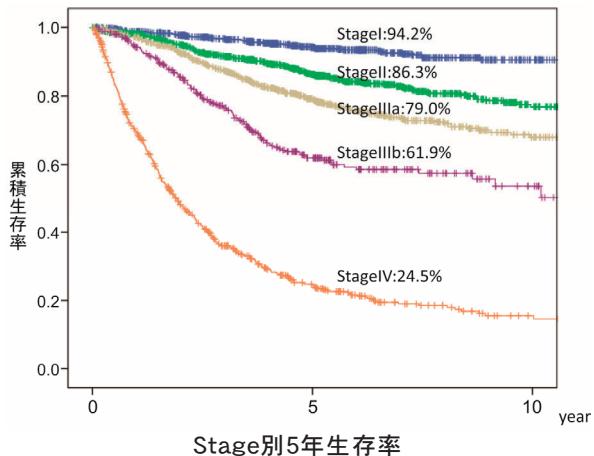
Survival rate of according to Stage



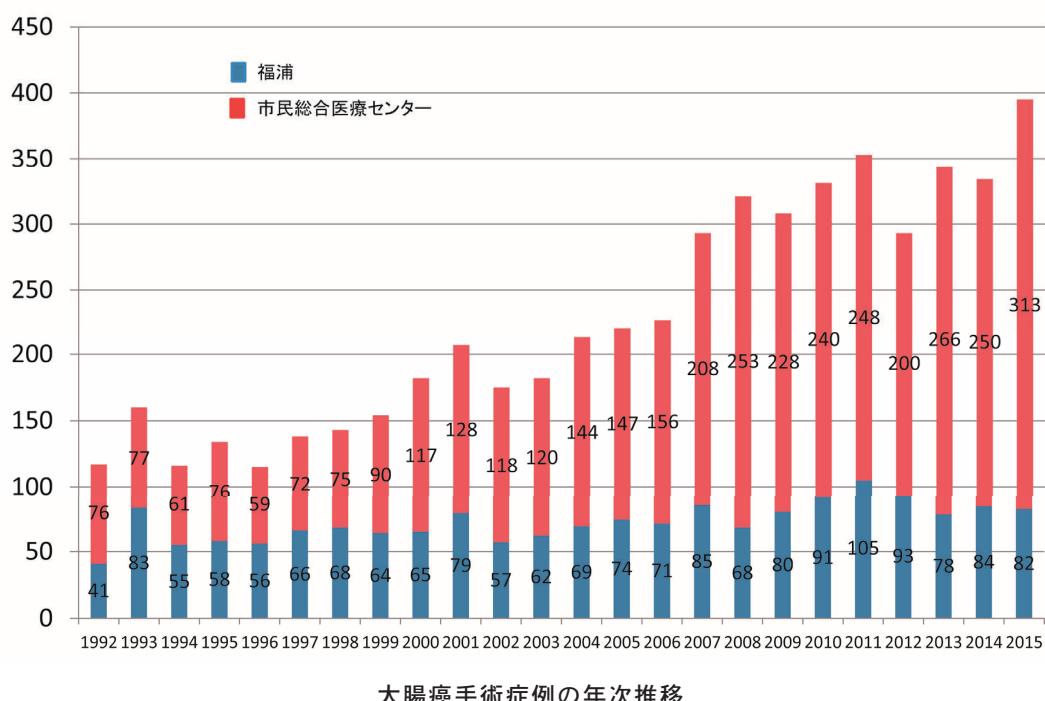
# 大腸癌

石部 敦士

平成27年度の手術件数は福浦82件、消化器病センター313件で合計395例と過去最高でした。とくに市民総合医療センターでの手術症例数が増加しております。Stage別の5年生存率はI=94.2%、II=86.3%、IIIa=79.0%、IIIb=61.9%、IV=24.5%でした。腹腔鏡下手術の割合は年々増加し、今年度は89.3%が腹腔鏡下手術となっています。腹腔鏡下側方郭清などの新しい手技も軌道にのり、学会等でも発表を重ねています。臨床研究においてもYCOGを中心とした多数の多施設共同研究を行っております。また神奈川県下では初となるda Vinci（ダヴィンチ）によるロボット支援下直腸癌手術を10月から施行し、症例を重ねているところです。手術の低侵襲化、周術期成績の向上と集学的治療など各分野で日本をリードするevidenceを確立できるよう日々精進しております。



da Vinci手術



大腸癌手術症例の年次推移

# 炎症性腸疾患

木村英明

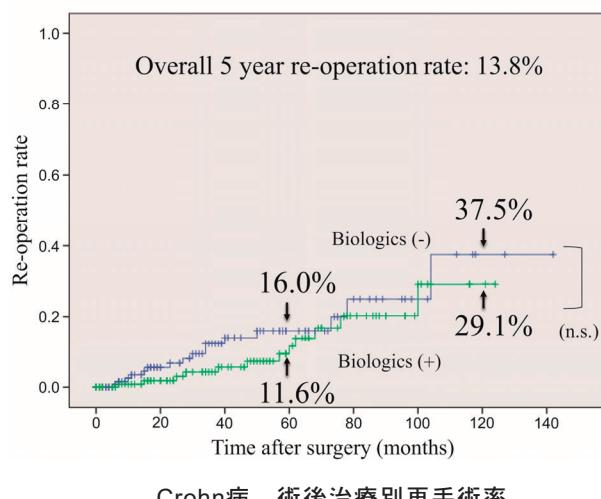
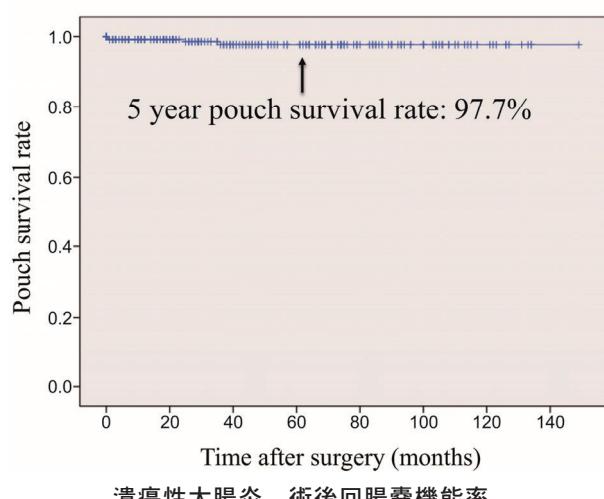
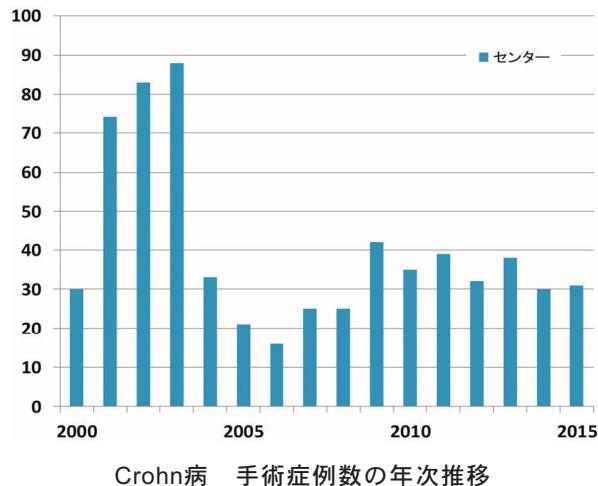
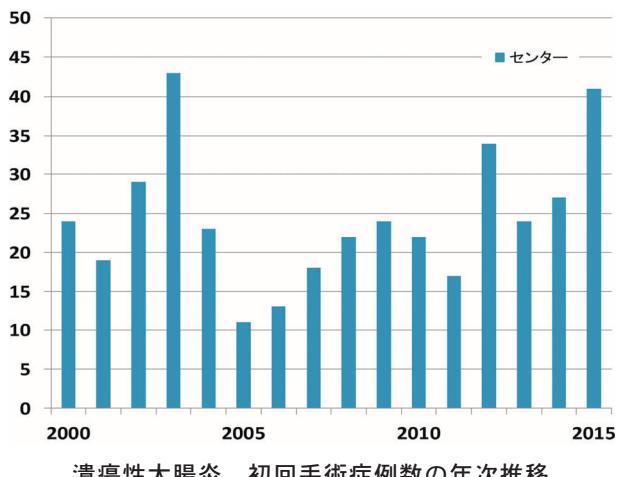
2015年のセンター病院炎症性腸疾患（IBD）センターの総手術件数は103件でした（潰瘍性大腸炎初回手術41例、2期目再建手術19例、Crohn病31例、その他腸管Behcet病、単純性潰瘍など）。

2000年からの潰瘍性大腸炎の累積手術例は393例、当科初回手術例は378例で、手術適応は難治242例（64%）、重症113例（30%）、癌、dysplasia23例（6%）、1期的手術は214例（57%）、腹腔鏡補助下手術（HALS）は96例（25%）、緊急手術は107例（28%）でした。術後排便機能は経時に回復し、術後1年における一日排便回数は $7.7 \pm 3.0$ 、漏便（soiling）は14%で、回腸囊使用例の回腸囊機能率は5年で97.7%でした。

2000年からのCrohn病の累積手術例は640例で、

腸管病変に対する手術は560例、標準術式は小範囲切除、狭窄形成術で、111例（20%）を腹腔鏡補助下手術でおこないました。肛門病変に対する手術は131例で、標準術式はseton法ですが、38例（29%）は人工肛門造設を要しました。腸切除例における5年累積再手術率は13.8%、10年累積再手術率は34.0%で、当初は術後生物製剤導入例で再手術率は低下していましたが、長期経過例が蓄積するにしたがって生物製剤使用の有無で再手術率に差はなくなっています（5年再手術率、術後生物学的製剤投与あり：なし=11.6% : 16.0%、n.s.）。

引き続き安全でQOLの高い手術をおこなっていきます。



# 原発性肝癌

熊本 宣文

我国では1989年から輸血用血液のC型肝炎のスクリーニング、住民を対象とした肝炎ウイルス検査を開始し、自覚症状のないHCVキャリアの拾い上げを積極的に行ってきました。さらに、C型慢性肝炎の治療に関しては直接作用型抗ウイルス薬の登場によりウイルス排除率は上昇してきている。このため、C型肝炎持続感染に起因する肝細胞癌は全国的に減少傾向にある。

2016年度の肝細胞癌新規登録症例は35例で昨年に引き続き減少した。このうちC型肝炎に起因するものは26%（9例）で昨年に引き続き減少した。それに対して、非B非C型（NBNC）肝癌症例は17例（49%）と約過半数を占めた。NBNC肝癌の多くは大量飲酒や非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）由来であり、特にNASH由来の肝癌症例は、高齢で腫瘍径が大きく、糖尿病合併率が28.7%、虚血性心疾患合併率が9.3%でウイルス性肝炎由来の肝癌症例と比較し有意に高く術前評価、手術手技、術後管理が重要となってきている。

術前肝機能評価に関しては、アシアロSPECT/MDCT融合画像による分肝機能評価を行い、術前肝不全予測に応用している。特に門脈塞栓術後は、体積変化以上に肝機能は非塞栓葉へ移行しており適応の拡大の可能性が示唆されている。

術後管理に関しては肝不全死予防のため、早期予測、早期介入を目指しており、術直後のT.Bil>1.5かつAT-III<50はISGLS定義の肝不全B,Cとなる危険群であり早期介入が必要と考えている。またERASの導入を行い、2015年度の平均術後在院日数は11日と短縮してきている。

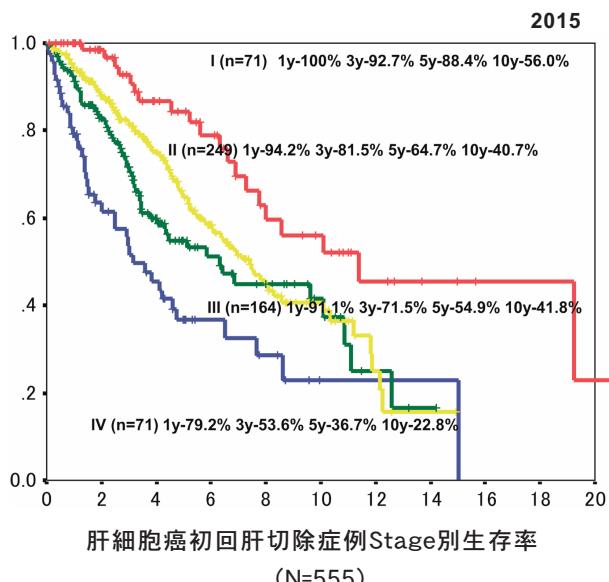
1992年から2014年までの555例の切除例のうちR2切除を除外したStage別5年10年生存率はそれぞれ、StageI：88.4%、56.0%、StageII：64.7%、40.7%、StageIII：54.9%、41.8%、StageIV：36.7%、22.8%

であった。予後規定因子は、肝内転移陽性、Liver damage BC、ICG20以上、AFP400以上、fc-inf陽性であった。

進行肝細胞癌に対する術後補助化学療法には、自費となります。インターフェロン併用5-FU動注化学療法、5FU+CDDP療法を行っている。

術後残肝再発症例に対する再肝切除も積極的に行っており、2012年度までの残肝再発症例210例中の45例（21.4%）が再肝切除を受け、5年10年生存率はそれぞれ、52.5%、20.4%で初回肝切除症例と比較し有意差を認めなかった。再肝切除症例の予後規定因子は、無再発期間1年未満、初回肝切除時の門脈浸潤陽性であり、この2因子が陽性の症例は再肝切除後1年内に再再発をきたすため、手術よりTACEなどの低侵襲な治療が適正であると考えられる。

基礎研究では、動物モデルを用いた肝再生、肝不全の病態解析並びに治療を継続しており、肝不全の新たな治療を模索している。



# 転移性肝癌

澤田 雄、熊本宣文、武田和永

当科では、大腸癌肝転移に対して、1985年より2015年末で609例に初回肝切除を実施してきました。2014年は初回肝切除32例、再肝切除6例の肝切除を施行し、非大腸癌症例を含めると、累計38例（福浦25例、浦舟13例）の肝切除を施行しました。大腸癌肝転移初回肝切除症例の5年生存率は49.6%でした（図1）。さらに、残肝再発症例に対しても、積極的な再肝切除療法を施行しており、97例（累計）の患者様に対し、切除を実施してきました。5年生存率は41.9%で、良好な成績を保っております。

現在の課題は、他院で、切除不可能と判断された肝転移症例に対し、化学療法・術式を組み合わせることで、切除を可能にすることと考えています。

1) 両葉多発腫瘍（4個以上） 2) 巨大腫瘍（ $\geq 8\text{cm}$ ） 3) 腫瘍脈管の浸潤している腫瘍 4) 予定残肝が小さい場合 5) 肝蔵以外に転移巣が存在する場合には、切除困難例と判定されることが多いですが、当院では、このような患者様に対し、臨床腫瘍科とも密に連携し、術前化学療法を実施することで、腫瘍の縮小後に、肝切除を実施する戦略をたて

ています（図2）。特にCircadian chronotherapy（肝動注クロノ療法）積極的に施行しており、これまで92例に実施し、切除率は83%となりました。昨年も肝門浸潤する転移巣を持つ80代の患者様を紹介いただきましたが、肝動注クロノ療法6コース試行後著明な縮小を示し、その後中央2区域切除を施行しました。病理結果はviableな腫瘍認めず、pathological CRでした（図3）。

さらに、切除後の予定残肝が小さい場合には、肝臓の再生能を利用して、門脈塞栓術併用切除を含めた多段階肝切除や、3D画像を利用した血管合併切除併用肝切除を実施しています。

以上のような工夫をしながら、当科では、大腸がん肝転移の患者様に対し、最大限安全な手術療法を施行しており、さらに、臨床腫瘍科・大腸グループとも、連携しながら、診療をすすめております。また、大腸がん肝転移症例の他に、婦人科疾患、神経内分泌腫瘍、胃癌などからの肝転移の患者様に対しても、肝切除が有効な治療となる場合があり、このような場合には、積極的に切除療法を選択しています。

Survival rate; 1-y 89.3%, 3-y 62.2%, 5-y 49.6 %

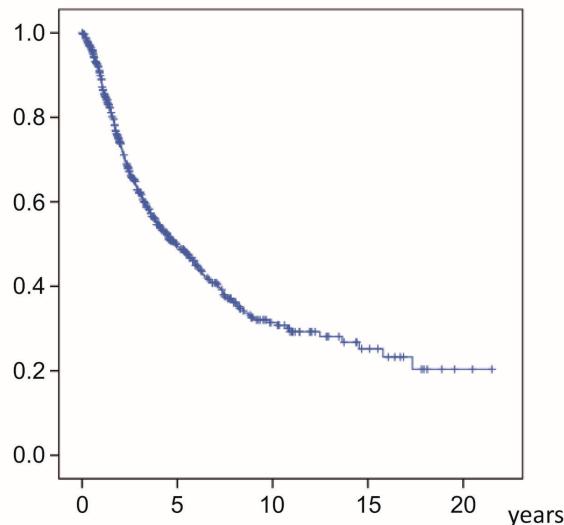


図1 大腸癌肝転移初回肝切除後生存率  
(n=609, 1985-2015)

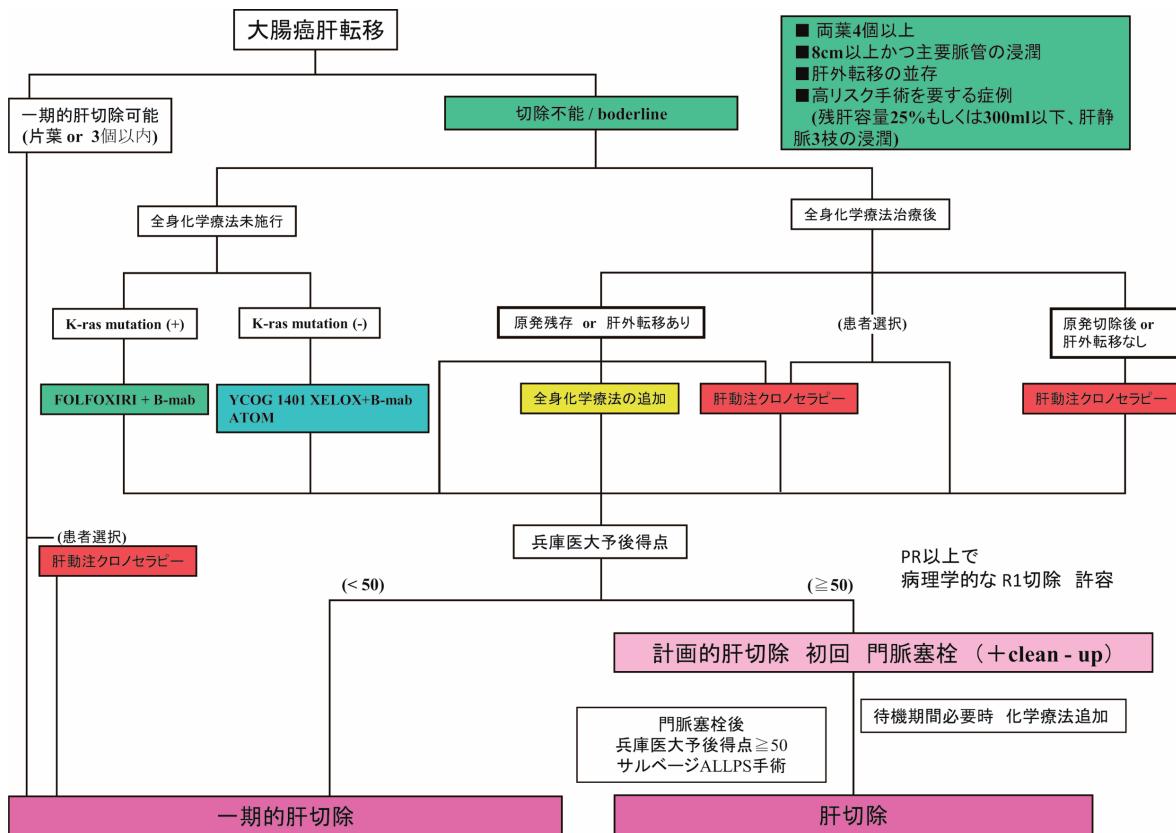


図2 当科での大腸癌肝転移治療方針

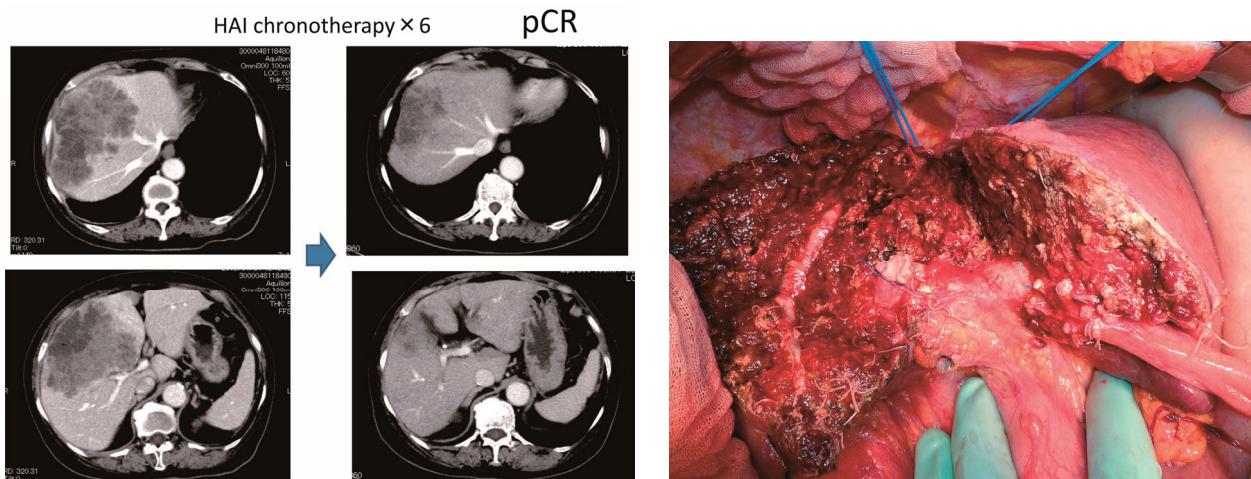


図3 肝動注クロノ療法著効例

肝動注クロノ療法後肝中央2区域切除施行

こちらはクロノセラピーのレスポンダーケースになります。80代女性で肝門浸潤する転移巣を認め、クロノセラピー6コース試行後著明な縮小を示し、その後中央2区域切除を施行した症例です。病理結果はviableな腫瘍認めず、pathological CRでした。

# 胆道悪性疾患

松山 隆生

肝内胆管癌を含めた胆道悪性疾患の本年度の切除手術症例数は福浦、センター病院あわせて肝門部領域胆管癌24例、胆囊癌8例、遠位胆管癌6例、十二指腸乳頭部癌8例、末梢型肝内胆管癌12例と合計で58例だった。横浜市内・神奈川県下から多数の貴重な症例をご紹介していただいているため胆道癌切除数は年々増加してきている(図1)。

1992年からの末梢型肝内胆管癌を除いた全胆道癌切除数は573例で5年生存率は43.3%、10年生存率は31.2%、生存期間中央値(MST)は43.3ヶ月であった(図2)。

肝門部領域胆管癌は本年度24例の切除症例を経験し1992年からの切除数は209例となり200例を越えた。非切除症例87例を加えた全症例は296例で切除率は70.6%であった。切除症例全体の5年生存率は36.6%、MSTは36.8ヶ月(図3)(非切除集学的治療症例のMSTは12.4ヶ月)であった。各ステージの生存曲線を図4に示す。肝門部領域胆管癌では左右3区域切除などの大量肝切除術や肝動脈、門脈の合併切除再建などの高難度手術が必要でありClavien-Dindo Grade IIIa以上の合併症を105例(50.2%)に認めた。またこれまでに9例の術後在院死亡を経験し在院死亡率は4.3%であった。

胆囊癌は本年度8例の切除症例を経験し1992年からの切除数は134例となった。切除症例全体の5年生存率は51.1%、MSTは63.2ヶ月(非切除症例はMSTが7.2ヶ月)であった(図3)。各ステージの生

存曲線を図5に示す。癌の深達度が漿膜下(SS)にとどまり、リンパ節転移も認めない局所に限局した症例であれば胆囊床切除と胆管周囲のリンパ節郭清で90%の症例で治癒が見込めるのに対して、肝十二指腸間膜や肝実質など周囲浸潤を来たした症例の切除成績は未だに極めて不良であり非切除症例のそれと大差がなかった。術前、術後の化学療法を含め、これら周囲浸潤を来たした胆囊癌症例に対する治療成績の改善が今後の課題である。

遠位胆管癌は本年度6例の切除症例を経験し1992年からの切除数は126例となった。切除症例全体の5年生存率は30.9%、MSTは33.5ヶ月であった(図3)。各ステージの生存曲線を図6に示す。遠位胆管癌においては脾に浸潤した症例はたとえリンパ節転移を伴っていなくても5年生存率が25.8%と通常型脾管癌と同等の切除成績しか得ることが出来ない。胆囊癌同様、このように局所浸潤した胆管癌に対する有効な補助療法の開発が急務である。

十二指腸乳頭部癌は本年度8例の切除症例を経験し1992年からの切除数は104例となった。切除症例全体の5年生存率は62.1%、MSTは91.2ヶ月と胆道癌全体の中では最も切除成績は良好であった(図3)。しかし各ステージの生存曲線を図7に示すがリンパ節転移を認める症例の5年生存率は28.0%と極端に不良であった。

このように胆道癌では局所浸潤やリンパ節転移の有無がその予後に大きく影響を与えている。近年、

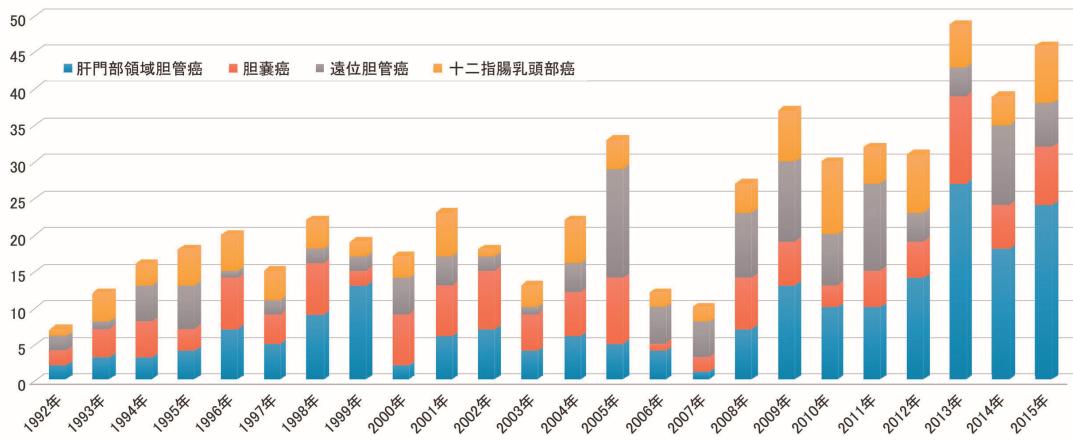


図1 胆道癌切除数年次推移

塩酸ゲムシタビンにS1やシスプラチニ併用する化学療法レジメンが非切除症例に対して有効とのエビデンスが示されているが術前、術後の補助療法に関するエビデンスは未だ皆無であることが大きな問題である。教室では2008年からこのような進行胆道癌に対しては院内倫理委員会の承認のもと積極的に術前化学療法を行っている。また、初診時非切除と診断された胆道癌に対しても半年間の化学療法を行い、病勢が進行しなければ積極的に切除を行っている。

前述のように胆道癌に対する手術はいずれも高難易度手術であり、合併症発生率も他疾患に比べて多いことが問題である。教室では2008年から3D-CTに

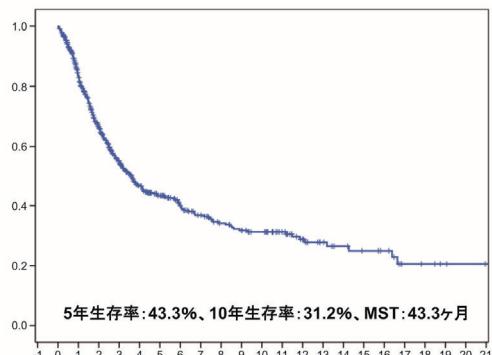


図2 胆道癌切除573例  
1992年4月～2015年12月

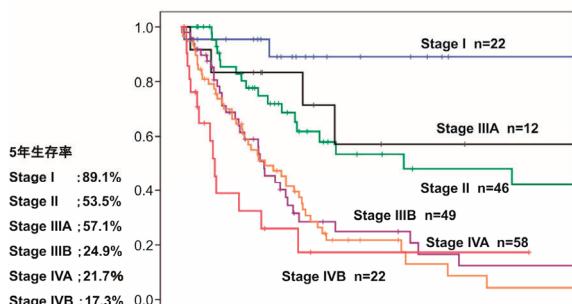


図4 肝門部領域胆管癌

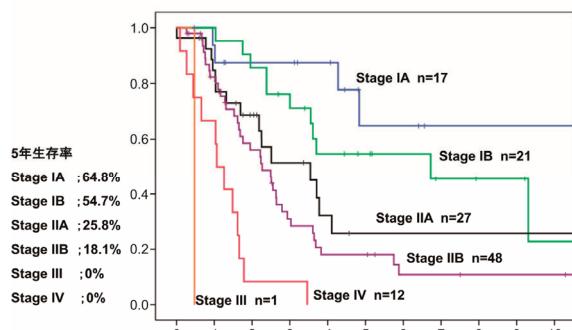


図6 遠位胆管癌

より術前切除シミュレーションを行ってきたが、現在ではこの3D-CT画像をtablet型端末を用いて術野に持ち込むことで切除の際のNavigationとし、切除時間の短縮、切除中の出血量低減などに役立たせている。今後さらに発展させて肝切除術におけるNavigation surgeryの実現に貢献したい。

胆道癌に対する最も効果的な治療法は外科的切除であることは論を待たないが術前化学療法、放射線療法、術後補助化学療法、胆道ドレナージ術、胆管炎のマネージメントなど多岐にわたる手技と知識が必要である。今後も手術手技、知識の向上、研鑽、教育に励んで行きたい。

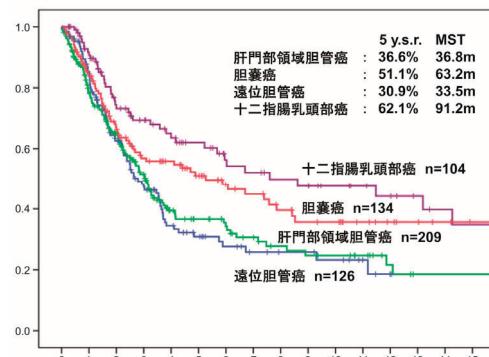


図3 胆道癌切除573例  
1992年4月～2015年12月

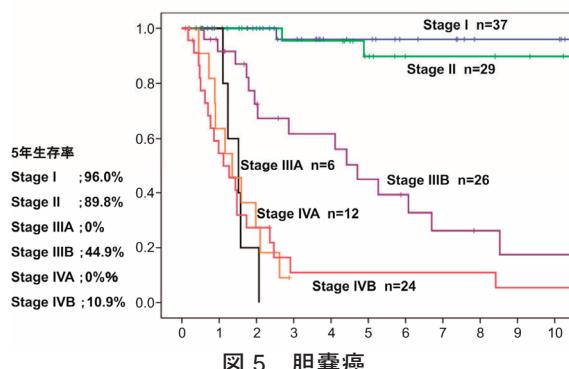


図5 胆囊癌

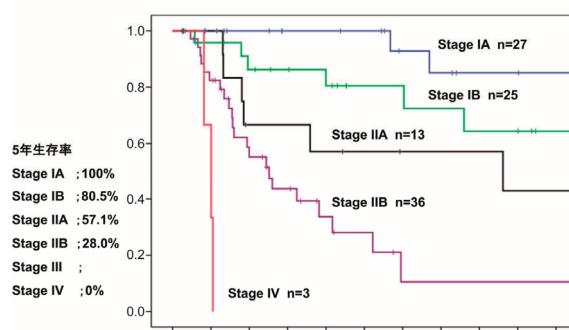


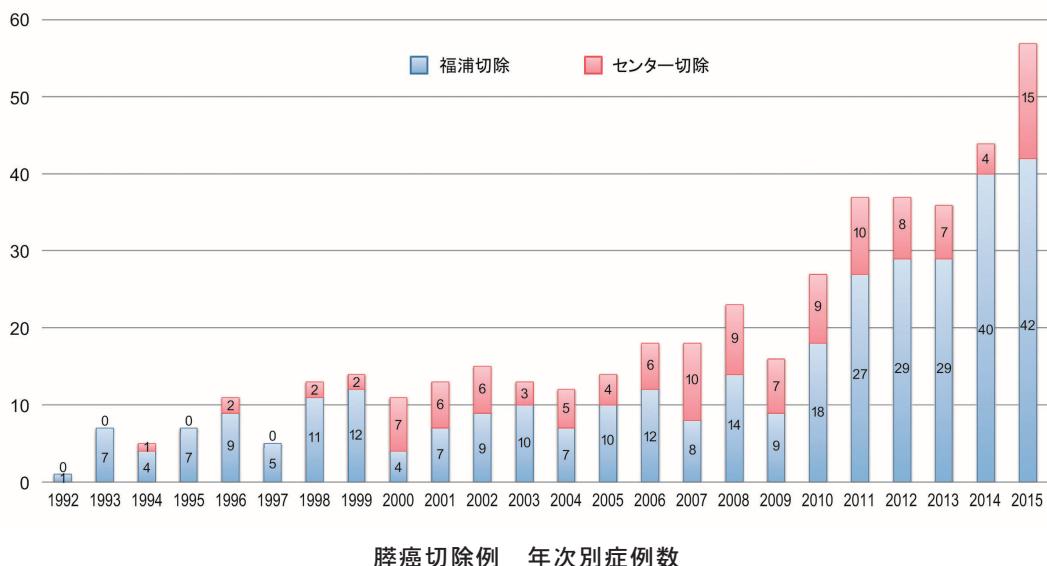
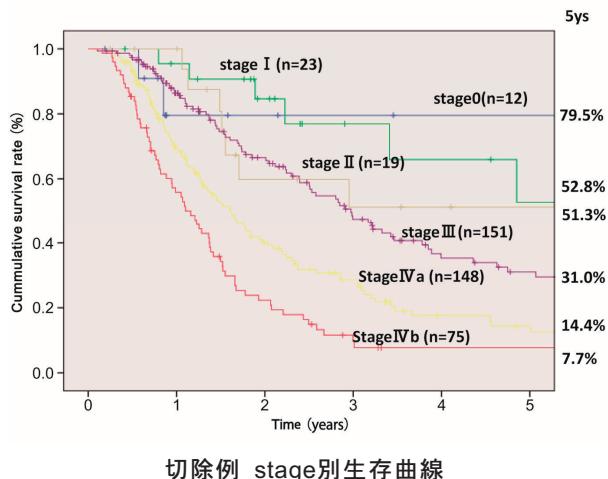
図7 十二指腸乳頭部癌

# 脾癌

森 隆太郎

2015年度の通常型脾癌切除は57例（福浦42例、センター15例）と過去初めて50例を越え、また、福浦だけでも42例と増加した。累積症例数は全体で659例、切除428例で切除率は65%となった。福浦の術式の内訳は、脾頭十二指腸切除35例（うち門脈合併切除30例、動脈合併切除4例）、脾体尾部切除7例で、33例が術前化学放射線療法後の切除で、このうち6例は初回切除不能脾癌であった。切除例全体の5年生存率は23%と年々少しづつ改善がみられている。特に、術前化学放射線療法を開始した2008年以降の症例に限ると29%と良好な成績が得られている。NCCNガイドラインでのUR脾癌に対するgemcitabineを中心とした長期化学（放射線）療法後の切除では、切除率29%、うちR0切除率88%、切除例の生存期間中央値は26か月と良好な成績を得ており、2014年度からはYCOGでのCFLAP studyとして局所進行UR脾癌に対しFOLFILINOX療法を導入し切除率・生存率の向上を目指し症例集積中で

ある。また、Borderline resectable脾癌に対する術前化学放射線療法後切除106例の5年生存率28%、生存期間中央値27か月の成績を得たことから、さらなる治療成績向上のため、2015年度からgemcitabine+Nab-paclitaxelの導入を開始した。



# 生体肝移植

澤田 雄、熊本宣文、武田和永

当院での肝移植は、1997年にはじまり、2016年1月現在、計64例となりました。1年生存率は82.6%、5年生存率は72.3%（図1）と、良好な成績を維持しています。原疾患の内訳は、1. 肝細胞癌（n=14）、2. B型肝炎肝硬変（n=13）、3. 劇症肝炎（n=9）、4. 原発性胆汁性肝硬変（n=8）、5. C型肝炎肝硬変（n=6）、6. アルコール性肝硬変（n=5）、7. 原発性硬化性胆管炎（n=2）、8. 自己免疫性肝炎（n=2）、9. 胆道閉鎖症（n=2）、その他（n=3）となっています（図2）。

肝移植後は急性拒絶反応発症をおさえるため、免疫抑制剤の使用が必須です。しかし、その一方で、感染症合併率が、他の消化器外科手術に比較して高率といわれています。当院で施行した肝移植症例中、これまで周術期に約半数の症例が敗血症に陥りました。そこで、感染症予防の取り組みとして、術前からのリハビリ導入、シンバイオティクス栄養療法を導入しています<sup>1)</sup>。導入後の9例では、生存率100%を維持しています。一方、C型肝炎ウイルス再発や肝細胞癌再発などの原疾患再発治療に関して、退院後は、消化器内科、さらに臨床腫瘍科と連携して診療を行っています。

2010年7月にわが国では、改正臓器移植法が施行されました。その後、脳死肝移植数が急増し、改正後1年間で55例からの脳死肝臓提供がありました。一方、現在、成人に対する脳死肝移植実施施設は、

全国19施設ありますが、関東地方では、慶應大学、順天堂大学、東京大学、信州大学の4施設です。現在、神奈川県下で成人の肝移植を行っている施設は当院のみで、かつ、横浜は、全国一番の人口を有する政令指定都市であるという社会的背景から、当院でも脳死肝移植施設認定を目指し、現在申請を行っています。

- 1) Takeda K et al. Severe sepsis after living donor liver transplantation: risk factors and outcomes. Transplantation proceedings (2016) in press.

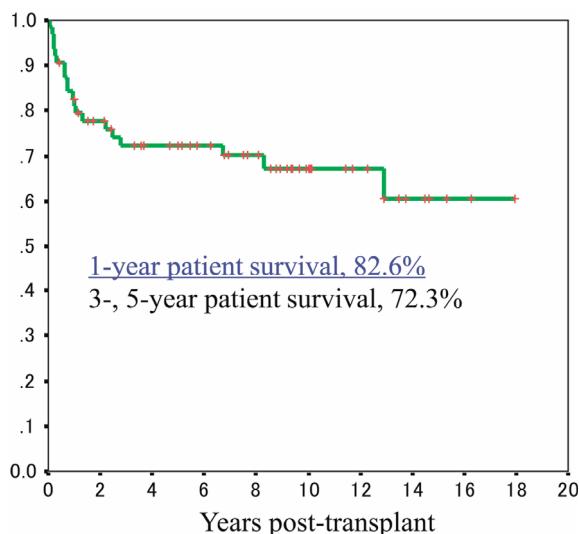


図1 肝移植後生存率

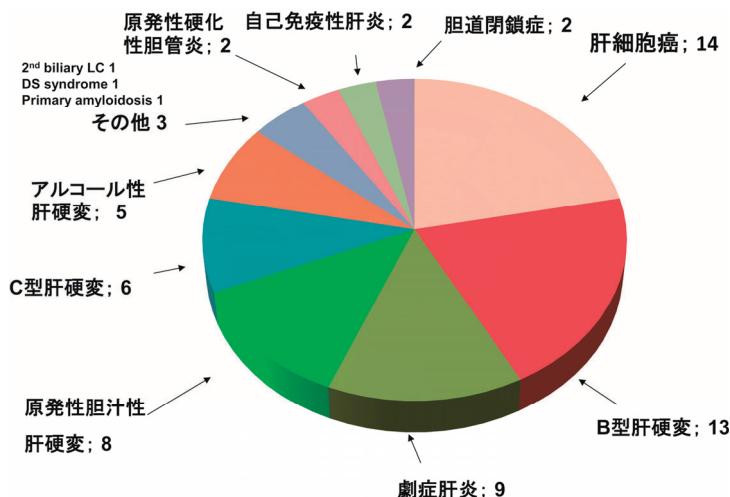


図2 肝移植症例原疾患の内訳

## 年間手術件数の推移

